

第 2 期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略

重点プロジェクト評価・検証シート

(令和 3 年度実績)

目 次

〈KPI達成状況：達成11項目 概ね達成0項目 未達成12項目 R3該当なし1項目〉

1. まちの未来創造

数値目標「合計特殊出生率」	1
数値目標「交流人口」	1
No. 1 住民による地区別計画推進の取り組み件数	2
No. 2 市内路線バスの日利用者数	3
No. 3 まちなか交流プラザ来館者数	4
No. 4 宿泊者数	5
No. 5 ナビデスク相談件数	6
No. 6 地域おこし協力隊の定住者数	7
No. 7 広域観光造成ツアー商品数	8
No. 8 観光入込客数	9
No. 9 インターンシップ受け入れ者数	10
No. 10 羊と雲の丘来場者数	11
No. 11 土別サフォークラム取り扱い飲食店数	12
No. 12 新たな技術開発の試験研究件数	13
No. 13 企業等との連携件数	14

2. 農業未来都市創造

数値目標「農家戸数」	1
数値目標「成雌めん羊飼養頭数」	1
No. 14 排水性向上対策（暗渠施工延長）	15
No. 15 土づくり対策（堆肥・緑肥施用面積）	15
No. 16 新規就農者確保数	16
No. 17 GPSガイダンス活用面積	16
No. 18 水管理システム台数（給水栓自動制御）	17
No. 19 飼養技術研修会に参加する生産者数	18
No. 20 新規めん羊飼養者数・新規飼養戸数	19

3. 合宿の聖地創造

数値目標「合宿者数」	1
数値目標「招致チーム数」	1
No. 21 リピーターチーム数	20
No. 22 チャレンジデーの達成率	21
No. 23 スポーツイベントの参加者数	22
No. 24 オリンピックデーラン参加者数	23

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略重点プロジェクト
数値目標(令和3年度実績)

1. まちの未来創造

数値目標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
合計特殊 出生率	-	-						1.5
交流人口	290,000人	616,078人						460,000 人/年

※合計特殊出生率は、国勢調査の資料をもとに、5年に1度、厚生労働省から公表されます。
(次回、令和4年公表予定)

2. 農業未来都市創造

数値目標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
農家戸数	553戸	537戸						450戸
成雌めん羊 飼養頭数	655頭	649頭						1,000頭

3. 合宿の聖地創造

数値目標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
合宿者数	延 11,462人	延 14,314人						延 24,900人
招致 チーム数	延217 チーム	延 270チーム						延500 チーム

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.1	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	総務部企画課						
	基本施策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
住民による地区別計画推進の取り組み件数 基準値(2018年度):3件/年 目標値(2026年度):延24件		3	3	3	3	4	4	4
		4	1					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		「まちの地域力」推進事業						
<p>【事業概要】 士別市「まちの地域力」推進事業支援要綱に基づき、まちづくり総合計画地区別計画等に位置づけた取り組みや協働による公益的なまちづくり活動の取り組みを支援し、地域力の向上を図る。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次募集 令和3年5月審査会 申請1件、採択1件 ・二次募集 令和3年7月審査会 申請1件、採択1件 ※北海道緊急事態宣言の延長により、10月に中止申請あり ・随時募集 令和3年12月28日まで受付中 <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居によるまちづくり(子育て日本一をめざして) 4年目 ※中止(次年度実施) 南町五自連交流会「魅力再発見!南町ウォーキング」 								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、必要な感染対策を講じたなかで一団体により事業が実施された。一方、新型コロナにおける緊急事態宣言期間の延長により、事業実施に必要な準備期間を確保できず、次年度に開催となる案件も生じたところである。</p> <p>また、地域において取り組みを検討されている団体やグループからの事前相談はあるものの、コロナ禍における情勢により、事業実施に消極的となる課題も生じたため、取り組み件数については未達成となった。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>2022年度から、まちづくり総合計画展望計画へ着手、取り組みとなることから、地域力の向上を目的として公益的な事業や協働のまちづくり活動を継続的に支援する必要がある。</p> <p>また、行政として、団体が取り組む先進事例やモデル性の高い取り組みなど、他地域に効果が広く波及する事業について効果的に広報周知を図るとともに、自治会や団体との連携を密にするなかで地域への広がりを高めることとする。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.2	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	総務部企画課						
	基本施策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
市内路線バスの日利用者数 基準値(2018年度):1,180人/日 目標値(2026年度):1,200人/日		1,180	1,180	1,185	1,190	1,195	1,200	1,200
		550	581					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		新たな公共交通MaaS推進事業・次世代モビリティビジョン推進事業						
<p>【事業概要】 士別市公共交通活性化協議会の研究組織として有識者、連携企業等で構成する「士別市次世代モビリティ推進会議」にて策定された「士別市次世代モビリティビジョン」について、市内交通事業者と連携確認を取り交わした。このビジョンに掲げる感染症の影響などを踏まえた、市民ニーズの変化に対応する公共交通の確保と持続可能な公共交通維持のため、関係者間の連携や感染症への対応、デジタル化の推進、利用環境の改善等の取り組みを支援する。</p> <p>【実施状況】 バス事業者では、令和3年12月1日より、これまで路線がなかった市内南地区を運行する新たな市内循環線「わくわく買い物線」の運行を開始した。加えて、市内循環線(外回り・わくわく買い物線)および朝日線の運行情報・位置情報をスマートフォンで確認することができるバスロケーションシステムを導入した。また、士別駅前停留所をJR士別駅構内を移設するとともに、士別駅待合室内にバスロケーションシステムを表示するデジタルサイネージを設置した。 タクシー事業者では、令和3年12月1日より、多寄地区を対象とした乗り合いタクシーの実証実験を開始するとともに、令和4年3月より、タクシー呼び出しシステムを搭載したタブレット端末を市役所本庁舎に試験導入して、今後の活用範囲の拡大を実証している。</p> <p>【主な取り組み】 ・士別市次世代モビリティビジョン連携確認締結(10月) ・多寄地区乗合タクシー実証試験 (12月～) ・市内バス新路線「わくわく買い物線」運行 (12月～) ・バスロケーションシステム導入、士別駅前バス停移設、デジタルサイネージ導入(12月～)</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>全国的にバス利用者が大幅に減少する一方で、住民ニーズの多様化による利便性の高い安定したサービスの提供が求められている。事業者の経営維持と効率的な地域の足を確保していくためには、利用者が少ない路線の減便や見直しや新たな利用促進に向けた取り組みが必要となっている。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.3	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
まちなか交流プラザ来館者数		-	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 720,000人		-	387,099					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
<p>【事業概要】 令和3年5月1日にまちなか交流プラザがオープンしたことにより、これからの観光情報の発信や観光拠点としての役割など、必要な取り組みについて、まちづくり士別株式会社など関係機関と協議を進め、中心市街地の賑わい創出を図る。</p> <p>【実施状況】 まちなか交流プラザは、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」として、北海道で129番目の登録認定を受け、行政とまちづくり会社の情報共有及び意見交換などを円滑に行い、中心市街地の活性化の取り組みを行った。</p> <p>【主な取り組み】 サフォークスタンプなど既存の取り組みとの連携</p>								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染の影響がある中でのオープンだったが、市内外から多くの方が来館され、目標値を上回る状況となった。</p> <p>要因として「道の駅」は24時間利用できる駐車場やトイレなどの休息機能があり、観光客や旅行者以外の利用者も多いことや、「道の駅」スタンプラリーなど、来館を目的とした取り組みなどの効果も高いと考える。また「マイクロツーリズム」の浸透により、自家用車を利用した旅行形態の増加や、地元の魅力の再発見など、近場で楽しむ方が増えてきている事も理由と考える。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>令和4年度以降もまちなか交流プラザの「道の駅」としての集客力に期待するとともに、羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング事業における取り組みの実施のほか、観光拠点、窓口の設置(広域含む)、情報発信の強化(一元化)など、まちづくり士別株式会社と協力し、まちなか交流プラザ来館者の集客に努める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.4	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
宿泊者数		81,000	81,000	82,000	82,000	82,000	83,000	83,000
基準値(2018年度):80,554人/年								
目標値(2026年度):延 574,000人		56,000	59,450					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
<p>【事業概要】 観光客及び合宿者が本市に訪れるような仕組みの検討や、訪れた方が再度訪れる(リピーター)仕組み作りを行うとともに、客室の空き状況などを一元化できる仕組みづくりを進める。</p> <p>【実施状況】 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、国内における移動の制限や施設利用の自粛など、従来行ってきたような形での宿泊受け入れなどが実施できない状況から、宿泊者数が大幅に減少したが、令和3年度はコロナ禍の影響を受けながらも、高まるキャンプ需要やドイツチームの東京オリンピック直前合宿などにより、本市を訪れる観光客及び合宿者などが増加した。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化(一元化)</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける中、宿泊者数は目標値を超える事が出来た。要因としては、キャンプ場利用者及び合宿者の増加が主な要因と考える。 「道の駅」オープンにより観光入込客数は増加したが、宿泊者数の増加には大きな効果が得られないことから、今後の対策を考えていきたい。 合宿者と受け入れ側の双方にて感染防止対策を強めることで、安全で安心な環境ということを広く効果的にPRしていく取り組みを継続し、合宿者数を回復させていくことが課題となっている。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>アフターコロナの対応、また、安全・安心なまちとして、感染拡大防止対策が継続されていることを広く周知する必要があり、コロナ禍の影響により増加するインターネット利用者に向けたプロモーション戦略を進める。また、PR動画や誌面など多様な情報発信ツールを効果的に活用する。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.5	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	総務部企画課						
	基本施策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ナビデスク相談件数		-	20	25	30	35	40	50
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 200件		-	67					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		移住定住促進事業						
<p>【事業概要】 移住定住に関する情報発信及び「すまい」「しごと」などの生活全般に関するサポート機能を有した総合窓口「移住ナビデスク」の運営により、移住希望者のニーズに応じた幅広い情報提供や移住後の不安解消を図り、定住に繋げる。</p> <p>【実施状況】 令和3年4月1日、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」を運営しているまちづくり士別株式会社と士別市移住ナビデスク業務の委託契約を締結した。 道の駅の特性を生かした情報発信の強化や休日及び祝日における相談窓口の開設により、移住ナビデスク機能の向上を図ったほか、市役所庁舎においても引き続き相談対応するなど、利便性の向上にも繋げた。 今後もまちづくり士別株式会社と連携を密にしながら、士別市移住ナビデスク機能の拡充を図ることで移住者の確保・関係人口の創出をめざす。</p> <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・士別市移住ナビデスクの運営(委託業務) ・休日、祝日の窓口開設 ・移住者向けリーフレットの作成 ・SNSによる情報発信(instagramアカウントの開設) ・雑誌等への広告掲載 								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>全国的に地方移住者が増加しているものの、依然として地方の人口減少は進行しており、本市においても人口減対策は喫緊の課題である。</p> <p>オープン以降、道の駅が移住や観光に関する情報発信機能の拠点であることが認知され、相談件数も昨年度並となったほか、今年度は移住に繋がったケースがあるものの、成果としては十分であるとは言えないことから、今後、一層の移住者・定住者の獲得に向けて、更なるナビデスクの機能強化や利便性向上のほか、新たな取り組みも必要であると考えます。</p> <p>【参考】 令和3年度ナビデスク相談件数:67件(うち移住に繋がったケース1件、実人数61人) 令和2年度ナビデスク相談件数:75件</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>移住先を検討している全国の方へ、一層士別市の魅力や住みやすさをアピールしていくために、観光や子育て、創業支援の取り組みなど、より効果的で包括的な移住に関する情報発信の手法について検討を進める。また、移住相談の内容等から移住者のニーズに合わせた新たな移住支援施策の導入についても検討を進めており、今年度から士別市に短期移住し、市民との交流や野菜収穫体験ができる移住体験事業を新たに実施する。今後においても、ナビデスクへの相談内容等を踏まえ、本市で必要な移住者確保のための施策について、引き続き検討を進める。</p> <p>移住や空き家の相談に訪れる方は、中長期的な展望で移住先を検討していると考えられるため、相談者のその後の動向や移住先など追跡調査及びフォローアップが必要であるほか、地域おこし協力隊も含めた定住者に対する移住者ネットワークによる交流の場の創出についても検討を進める。(移住ナビデスクの機能強化と移住者ネットワーク構築、市内と市外の方との交流の場創出)</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.6	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	総務部企画課						
	基本施策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
地域おこし協力隊の定住者数		1	1	1	1	1	1	1
基準値(2018年度):1人/年								
目標値(2026年度):延7人		2	1					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		地域おこし協力隊活動事業						
<p>【事業概要】 地域力の維持や強化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用し、地域外から新たな担い手や地域活性化策などを助言する意欲ある都市住民を受け入れ、定住定着にむけた取り組みを進める。</p> <p>【実施状況】 地域おこし協力隊員は、令和3年度において2名が退任するとともに、新たに6名の地域おこし協力隊員を採用し、年度末時点で12名の隊員が地域活性化に努め活躍している。 各隊員の活動については、毎月活動レポートの提出を求め、実施内容や進捗状況を確認している。また、退任後の定住をサポートするため、定期面談を実施し、活動中の不安や疑問の解消に努めている。</p> <p>(地域おこし協力隊員数内訳) 農業支援員:2名 羊飼養: 5名 観光振興: 4名 地域振興: 1名</p> <p>【主な取り組み】 ・協力隊員へのサポート ・市ホームページ等による募集活動 ・起業・就業にむけた定期面談の実施 ・起業支援金の活用</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>令和3年4月30日に農業支援員1名が3年間の任期を終えて多寄町の農業法人に就業した。 今後は、独立就農にむけて起業支援金の活用や農地等の取得など定住支援に関するサポートが必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>令和4年度以降は複数の隊員が任期満了による退任を迎えるため、サポート体制の充実を図るとともに、隊員へのフォローアップに努める。</p> <p>起業をめざしている場合は、協力隊員として活動できる3年間で全ての知識や技術を習得することは難しく、退任後も起業や定住に向けた支援が必要である。隊員本人及び各担当課と関係団体が連携して起業に必要な手続きや土地・店舗の取得等のサポートを行う。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.7	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	広域連携による着地型観光の深化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
広域観光造成ツアー商品数 基準値(2018年度):4商品/年 目標値(2026年度):6商品/年		4	4	5	5	5	6	6
0		0						
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 士別地域(士別市、和寒町、剣淵町、幌加内町)の観光資源を生かした広域観光ルートを形成し、多くの観光客が再度、この地域にきたいと思える新たな観光コンテンツの造成を広域で進める。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛などの影響から、各観光事業者によるツアーが中止となった。国内外からの観光客は減少したが、コロナ禍において、新北海道スタイルの実施など、感染拡大防止対策を十分に配慮し、市及び広域観光の取り組みを実施した。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、ツアー造成など招へい事業が実施できなかったものの、昨年度、実施好評であった1市3町の観光スポットやグルメを巡る「スタンプラリー」を実施し、本地域への集客に努め、地域の活性化と観光振興を図った。</p> <p>今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に配慮し、ウィズコロナを前提に事業を進めるとともに、地域に訪れた人がリピーターになってくれるような観光コンテンツの構築など、地域が一体となった取り組みを進める必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を継続し、この地域に訪れることが安全・安心であることを広く周知していく。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症が沈静化した後の動向を見据えた取り組みとして、観光情報発信に力を入れ、市及び地域を知っていただく効果的な取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.8	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	広域連携による着地型観光の深化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
観光入込客数 基準値(2018年度):335,400人/年 目標値(2026年度):延 3,084,500人		336,000	456,000	457,500	457,500	457,500	460,000	460,000
		290,000	616,078					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 既存の観光コンテンツのほか、スポーツや農業体験等を組み合わせた新たな観光メニューや地元食材を活用した新メニューなど広域な取り組みにより進める。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛などの影響から、各観光事業者によるツアーなどの国内外からの観光客は減少したが、5月にオープンした「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」に市内外から多くの方が来館され、目標値を上回る状況となった。新北海道スタイルの継続実施など、感染拡大防止対策を十分に配慮し、市及び広域観光の取り組みを実施した。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛などの影響はあったが、5月にオープンした「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」の入込や、昨年同様に「3密」を回避できるレジャーとして注目されているキャンプ場利用者数の増により目標値を達成することができた。</p> <p>コロナ禍においては「マイクロツーリズム」の考えが浸透し、遠くより近く、公共交通を利用せず自家用車による旅行などが選択肢として増えてきている傾向にあることから観光入込客数は増加したが、今後はウィズコロナを前提にどのように観光客の動向が変化するのか注視し、状況に合わせた対策を取っていく必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の観光誘致の対策として、3密回避対策など感染防止を継続しつつ、キャンプやサイクリングなど、自然を生かしたアウトドアなどの取り組みも検討し進めていく。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.9	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	広域連携による着地型観光の深化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
インターンシップ受け入れ者数		3	4	4	4	4	4	4
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 27人		0	0					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 外国人観光客の増加に伴う受け入れ側のインバウンド対応能力の向上に繋げ、交流人口の拡大を図る。 また、受け入れに必要なコミュニケーション能力・語学力の向上をめざす。 インターン生による各職場での体験をSNS等で情報発信するなど、地域における観光の魅力を広める取り組みを進める。</p> <p>【実施状況】 本来であれば、国立高雄科技大学の日本語学科に通う台湾大学生を対象にインターン生を地域に迎え入れ、情報発信の拡大や相互交流の活性化を期待した取り組みを進める予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、インターンシップによる受け入れを中止した。</p> <p>【主な取り組み】 インバウンド受け入れ環境整備</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、インターンシップによる受け入れを中止としたため、目標値には達成しなかった。今後はこれまで進めてきた台湾との交流の継続協議や、新たな地域との取り組み検討などが課題となるほか、地域がインバウンドを受け入れていく体制整備、関係機関との協議の継続、より効果的な情報発信が必要である。また、ホストタウンの取り組みなど、今後の交流の仕方を検討する必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の取り組みとして、台湾国籍の地域おこし協力隊による台湾に対する地域の情報発信に力を入れるとともに、受け入れる地域においても、台湾への理解力の向上や、ホストタウンによる様々な交流のつながりを生かし、幅広い取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.10	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
羊と雲の丘来場者数 基準値(2018年度):50,547人/年 目標値(2026年度):延 360,500人		51,000	51,000	51,500	51,500	51,500	52,000	52,000
		31,000	27,370					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 本市の特産品や地元食材を活用したメニューの提供など、道内外の物産展等で積極的なプロモーション活動を実施する。 また、観光パンフレットやホームページ、SNS等の媒体を活用した効果的な周知を進める。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、これまで行ってきた道内外のイベント等が中止となったが、羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング事業と連動した「羊と雲の丘30周年イベント」の実施によるPRを行った。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>緊急事態宣言等による外出自粛などの影響から、羊と雲の丘来場者は減少し、依然として集客は戻らない状況となった。 「羊と雲の丘30周年イベント」の実施や、めん羊工芸館におけるイベントなど、羊と雲の丘への来場増加をめざした取り組みも行ったが、レストラン利用客の減少などにより、目標達成には至らなかった。 今後は、「道の駅」に来館する多くの方を「羊と雲の丘」にも来場してもらえるような、連携した取り組みの構築が必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の観光誘致の対策として、アフターコロナを前提としたキャンプやサイクリングなどのアウトドア観光メニューの提供など、新たな取り組みを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症収束後の動向を見据え、本市が安全・安心なまちであることの周知を含めた観光情報発信に力を入れ、羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング事業と連動した、本市及び地域を訪れる観光客を増加させる取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.11	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担当部署	経済部商工労働観光課						
	基本施策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
士別サフォークラム取り扱い飲食店数		4	4	5	5	5	6	6
基準値(2018年度):4店舗/年 目標値(2026年度):6店舗/年		5	6					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
<p>【事業概要】 市内飲食店などでサフォークラム等の利用拡大を図り、幅広いプロモーションを通じて地域ブランド羊肉「士別サフォークラム」を発信し、本市への集客を図る取り組みを進める。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により市外から訪れ「士別サフォークラム」を食してもらう機会が減少するなか、北海道スタイルの実施を継続するとともに、ブランディング事業と連動して地域への誘客に努めた。</p> <p>【主な取り組み】 情報発信の強化</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>士別サフォークラムを取り扱う店舗として「まちなか交流プラザ」が増えたことで、これまで以上に多くの人たちに「士別サフォークラム」を食ってもらう機会が増えた。</p> <p>今後においてもウィズコロナを前提に「士別サフォークラム」の消費拡大、PRの取り組みが課題である。また、本市の観光資源情報を増加するインターネット利用者に対して効果的に行うとともに、他分野と連携した新たな体験型・滞在型観光の創出が必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>ウィズコロナを前提に本市が安全・安心なまちであることの周知を含めた「士別サフォークラム」の情報発信に力を入れていく。</p> <p>羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング事業と連動し、本市及び地域を訪れる観光客に「士別サフォークラム」の良さを知ってもらい、更なるブランド力の向上、提供店舗の増加に繋がる取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.12	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	Society5.0の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新たな技術開発の試験研究件数 基準値(2018年度):延 2件 目標値(2026年度):延 3件		-	1	-	1	-	1	-
		-	1					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業						
<p>【事業概要】 本市に見合ったSociety5.0の構築に向けた調査研究を進めるとともに、MaaSの導入や自動運転の実証実験を中心に、本市が有する自然環境を生かした新たな技術開発の試験研究誘致に努める。</p> <p>【実施状況】 見識のある企業との意見交換や「北海道自動車安全技術検討会議(事務局:北海道)」の参画等によって、WEBによるリモート会議を中心に、MaaSの導入や自動運転の実証実験に関する調査・研究を進めた。また、昨年度からの継続した誘致の取り組みにより、今年度秋期に市内において、国内企業による自動運転試験及びプロモーション撮影が実施された。</p> <p>【主な取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・「自動運転試験」の誘致に向けた情報収集及び情報発信、北海道との連携、見識のある企業との意見交換 ・自動運転試験の誘致 1件 ・バスロケーションシステムの導入(取り組み内容の詳細はNo2に記載) </p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年度からの継続した誘致の取り組みにより、秋期に自動運転試験が実施され、目標は達成となった。しかしながら、本市の積雪寒冷の特色を活かした冬の自動運転試験については、相談や本市からの資料提供を行ったものの、誘致に至っておらず、試験用路線等のラインアップ、企業へのPRや周知方法などに課題がある。また、Society5.0については、新型コロナウイルス感染症の影響により、研究のための出張等を自粛していたことから、調査研究はあまり進展していない。なお、R3.12から市内循環バスで利用できるバスロケーションシステムを導入したことにより、Maasの概念を取り入れた市民の利便性向上の取り組みとなった。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>今後の取り組み強化に向け、HAIA(北海道自動車安全技術検討会議)との一層の連携強化のほか、多様化するニーズに合わせた自動運転用の道路・フィールドの設置に向けた検討を進める。また、R4については、コロナウイルスの影響により自粛している都市圏での誘致プロモーション等の活動を本格化させたい。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.13	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	遊休財産の活用も含めた企業誘致等によるまちの活性化 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
企業等との連携件数		1	-	1	-	1	-	1
基準値(2018年度):1件/年								
目標値(2026年度):延 4件		0	2					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業、立地企業連携事業						
<p>【事業概要】 特定遊休財産を中心に、利活用の見込みがない公共施設を活用した企業誘致を進めるほか、駅南工業団地の分譲に向け、積極的な周知等に努める。また、企業連携としては、立地企業との市民交流の取り組みもさることながら、包括連携協定の締結に向けた協議を進める。</p> <p>【実施状況】 引き続き、企業誘致に向けた北海道との連携や見識のある企業との意見交換を実施したほか、駅南工業団地の分譲に関する北海道への情報提供や立地に向けた企業との交渉にあたったところである。また、特定遊休財産の活用に向けた事業者公募(取り組み期間 R3.7~現在進行中)を実施し、令和4年度も引き続き審査を進めている。また、10月にはトヨタ自動車(株)士別試験場、3月にはダイハツ工業(株)と包括連携協定を締結したところであり、市民生活の安心・安全に向けて、今後も一層、連携及び取り組みを強化していく。</p> <p>【主な取り組み】 ・特定遊休財産の活用に向けた事業者公募及び選定手続き(審査継続中1件) ・北海道との連携、見識のある企業との意見交換、立地に向けた交渉(パネ工場誘致1件) ・包括連携協定の締結 2件(トヨタ、ダイハツ) ・トヨタ健康ウォーキングの開催(10月)</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成 令和3年度目標設定なし						
<p>令和3年度目標値の設定はないが、企業等との連携として例年開催しているトヨタ自動車(株)士別試験場でのウォーキング開催、同試験場やダイハツ工業(株)との包括連携協定締結、パネ工場の誘致が実現した。一方、特定遊休財産については、法令による規制や活用に向けてコスト面での課題があり、今後は条例含めた制度改正や募集形態を見直すなどの改善がなければ、活用は難しい状況。また、立地企業との交流イベントは、コロナウイルスの影響により、多くが中止となったことから、今後はウィズコロナにおけるイベントのあり方について、立地企業と連携して検討していくことも必要。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>駅南工業団地については、問い合わせや資料送付をおこなったものの、分譲には至っていないため、今後は、これまでどおり工業団地単独の分譲を継続するのではなく、移住(UJターン)の取り組みや起業支援の取り組みなどと組み合わせる包括的に取り組みを進める。</p> <p>これまでの自動車等試験研究のまちの伝統や包括連携協定の締結による企業との関係強化は進めつつ、移住・定住促進の視点も併せもった新たな企業誘致の取り組みを進める。 (お試し移住事業とワーケーション誘致をミックス) (起業フォローアップ・経営支援事業と移住(UJターン)推進と地域おこし協力隊サポートをミックス) ⇒定住者獲得と起業(企業誘致)につなげる</p> <p>民間信用調査会社との連携により、本市進出の可能性のある企業へDM送信するなど、可能性のある企業へ積極的アプローチを仕掛ける。</p>								

第2期土別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.14	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
排水性向上対策(暗渠施工延長) 基準値(2018年度):62,519m/年 目標値(2026年度):延385,000m		55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
		64,740	43,561					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金						
<p>【事業概要】 排水性の向上により、適期作業を可能とし、農作物品質の向上・生産量の増加及び営農機械の走行性の改善による農作業の効率化を図ることで、農業所得の安定化等により持続可能な生産体制の確立を図る。</p> <p>【実施状況】 小規模な暗渠排水を実施し、排水性の向上を図った。</p> <p>【主な取り組み】 暗渠施工延長 43,561m</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>中山間地域等直接支払交付金制度の内容変更により交付金の活用が春先の申込時に不透明だったことから、申込み件数が減少し目標が未達成となったが、引き続き小規模な暗渠排水を実施することにより農作物品質の向上・生産量の増加をめざし、持続可能な生産体制の確立を図る。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>中山間直接支払い交付金制度による暗渠施工が可能となったことから、今後も排水性向上対策の実施により、農作物品質の向上・生産量の増加等を図り、農業所得の安定化等による持続可能な生産体制の確立を図る。</p>								

No.15	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
土づくり対策(堆肥・緑肥施用面積) 基準値(2018年度):2,294ha/年 目標値(2026年度):延16,000ha		2,200	2,200	2,200	2,300	2,300	2,400	2,400
		2,379	2,327					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金・産地交付金・環境保全型農業直接支払交付金						
<p>【事業概要】 農業の原点である土づくりの推進を図る。</p> <p>【実施状況】 堆肥施用や適正な輪作体系の確立を図るため緑肥作物を導入し、農作物の収量・品質向上を図った。</p> <p>【主な取り組み】 堆肥施用面積 1,270.3ha 緑肥作付面積 1,056.7ha</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況(見込)		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>引き続き、農作物の収量・品質向上をめざすため、堆肥施用や緑肥作物を導入し、持続可能な生産体制の確立を図る。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>堆肥施用や適正な輪作体系の確立を図るための緑肥作物の導入により、農作物品質の向上・生産量の増加による農業所得の安定化を図る。また、持続可能な生産体制の確立を図るため引き続き事業に取り組む。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.16	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	担い手の確保・多様で安定的な経営体の育成 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規就農者確保数 基準値(2018年度):8人/年 目標値(2026年度):延 35人		5	5	5	5	5	5	5
		6	8					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		農業農村担い手支援事業						
<p>【事業概要】 就農研修者・新規就農者・新規参入者など地域の担い手の確保・育成を図る。</p> <p>【実施状況】 都市部で開催された就農相談会への参加や、北海道担い手育成センター(北海道農業公社)への訪問、道内の農業大学へ農業研修者の募集パンフレットを送付する等、PR活動を実施した。担い手確保等に向けた地区別意見交換会を実施した。</p> <p>【主な取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・就農相談会への参加 2回 ・大学へのパンフレット送付 3ヶ所 ・農業公社訪問 1回 ・意見交換会実施地区 7地区 ・就農研修者等との定期面談(毎月) ・就農研修者の活動状況報告(市ホームページへ掲載・農業委員へ報告) </p> <p>【就農研修者内訳】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊員(農業支援員) 2人 ・士別市就農研修者 3人 </p> <p>【新規就農者内訳】 <ul style="list-style-type: none"> ・新規参入者 1人 ・Uターン(学卒者含む) 6人 ・雇用就農 1人 </p> <p>【経営体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化ネットワーク会議の開催 参加者 11名 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・HACCP衛生管理研修 (講師:名寄保健所職員) ・まちなか交流プラザについて (説明:まちづくり士別(株)職員) </p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
新規就農者数の目標は達成されているが、地区別意見交換会の結果、新規就農者の確保については、各地区において様々な意見が出ており、将来の地域コミュニティ維持を含め、今後も各地区での議論が必要である。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
地区別意見交換会等の開催により、研修生の受け入れ意向についての状況把握に努める。								

No.17	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
GPSガイダンス活用面積 基準値(2018年度):5,174ha/年 目標値(2026年度):延 41,090ha		5,450	5,590	5,730	5,870	6,010	6,150	6,290
		5,482	5,809					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		経営所得安定対策等産地交付金						
<p>【事業概要】 GPSガイダンス活用により、農作業の省力化、低コスト化を図る。</p> <p>【実施状況】 GPSガイダンスの活用促進のため、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューとして設定した。</p> <p>【主な取り組み】 GPSガイダンス活用面積 5,809ha</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
引き続き、農作業の省力化や、低コスト化が見込まれるGPSガイダンス活用を図る。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
引き続き、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューとして設定する。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.18	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
水管理システム台数(給水栓自動制御システム) 基準値(2018年度):- 目標値(2026年度):延 280台		20	30	40	40	50	50	50
		56	2					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		多面的機能支払事業						
<p>【事業概要】 圃場の水位・水温等の情報をスマートフォン等で伝達し、遠隔操作での水管理を行うことで労働時間の削減を図る。 大雨が降った時に雨水を水田に一時的に貯留し、水田からのピーク流出量を抑制して下流の農耕地や住宅地の洪水被害を軽減する目的で実施する。(水田の貯蓄機能向上活動)</p> <p>【実施状況】 多面的機能支払交付金の活用し、水管理システムの導入を支援した。</p> <p>【主な取り組み】 水管理システム台数(給水栓自動制御システム) 2台</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>多面的機能支払交付金を活用し、水管理システムが導入され、労働時間等の削減が図られた。 水管理システム(給水栓自動制御システム)の延台数は達成しているが、システムの値上げや当初想定していなかった自動給水栓のゴミ詰まり多発などの問題により、導入を控える農業者が増えている。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>水管理システムの導入により、労働時間の削減やリアルタイムな圃場情報の把握が可能となる。適切な生育管理を実施することで水稲の品質・収量の向上を図るとともに、農村環境保全活動の水田貯留機能増進・地下水かん養「水田の貯留機能向上活動」(田んぼダム)により洪水被害等の軽減を図る。また、システム導入意向についても農業者へ確認していく。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.19	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
飼養技術研修会に参加する生産者数		10	10	10	15	15	15	15
基準値(2018年度):4人/年								
目標値(2026年度):延 90人		28	24					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
<p>【事業概要】 めん羊飼育に関する全国・全道の機関・団体や生産者などとの連携、また、農業応援アドバイザーによる飼養技術向上などの助言や労働力の確保などにより生産基盤の充実を図る。</p> <p>【実施状況】 士別市農業応援アドバイザー2名体制で実施をしており、飼養現場視察・指導を行い、法人生産者の従業員に対しても統一的な手法・見解による飼養技術取得をめざした。 本年度は、3回の現場視察・指導を実施した。</p> <p>【主な取り組み】 羊飼養現場視察・指導 3回、6施設延べ24名</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>新たに設置した「士別市めん羊生産育成牧場」も加わり羊飼養現場視察・指導など、全ての生産者や地域おこし協力隊も参加し、目標を上回ることができた。 コロナ禍にあって取り組み計画の一つである各牧場の生産担当者が一堂に会しての技術指導や講習会などが実施できなかった。</p> <p>成雌・種雄別に体重、出産状況や受胎状況など、各牧場における統一ソフトによるデータの管理体制の確立が課題である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>コロナ禍により、予定していた北海道サフォーク種共進会や北海道めん羊協議会主催の研修会が中止となった。これらは、普段見ることができない他地域の羊を間近で確認でき、また、羊業界全体の動きや新たな技術を知る機会となることから、積極的に参加する予定であった。 今後においても、これらの機会に積極的に参加し、更なる技術向上・地域内均一飼育を徹底していかなくてはならない。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.20	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規めん羊飼養者数(上段)		1	1	1	1	2	2	2
新規飼養戸数(下段)		0	0	0	0	0	0	1
基準値(2018年度):-		1	1					
目標値(2026年度):延 10人・1戸		0	0					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
<p>【事業概要】 サフォーク羊の新規生産者の確保及び既存生産者の規模拡大の取り組みに対して支援する。「地域おこし協力隊制度」の活用や各種大学・専門学校生の受け入れなどを推進し、人材の確保・育成を図る。</p> <p>【実施状況】 新たな人材育成・確保については、コロナ禍により少数ではあったが羊飼育実習生の受け入れを行った。研修後、地域おこし協力隊への応募に繋がる可能性がある。</p> <p>【主な取り組み】 羊飼育実習生の受け入れ めん羊生産育成牧場の設置</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成						
<p>法人牧場で1名の新規飼養者が就労した。 引き続き、次年度も取り組みを推進する。 課題としては、独立生産をめざすための初期投資や農業などの複合経営に向けた技術取得など</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>人材の確保育成について、道内外から多くの人が若者を中心に羊飼育を希望し、本市に興味を持っている。地域おこし協力隊としての長期研修を経験し、移住してもらえることは良いのだが、就労として受け入れ可能な人数が各企業において明確ではなく、併せて羊飼育のみでの独立起業は、生計を立てることが難しいことから、耕種農業と合わせた羊飼育など「営農類型」の確立が急務である。今後は、市(畜産・農業)と農業普及センターによる協議を重ね課題解決を図る。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.21	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担当部署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基本施策	合宿受け入れ態勢と招致活動の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
リピーターチーム数		153	155	157	159	160	161	162
基準値(2018年度):149チーム/年 目標値(2026年度):162チーム/年		87	95					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツ合宿推進事業						
<p>【事業概要】 トレーニング施設や宿泊施設などの環境整備をはじめ、地元食材を活用した食事の提供、さらには、合宿チームのニーズに応えた送迎体制を確保するなど、合宿受け入れ態勢の充実を図る。また、合宿の里士別推進協議会への補助による活動支援を行い、官民一体となった合宿招致活動を進める。</p> <p>【実施状況】 陸上競技場の不良箇所の修繕を行うなどトレーニング施設の環境整備を行った。また、市民と合宿者の健康と安心を確保するため、昨年から合宿チームと取り交わしている合意書に新たに5項目の対策を追加した。コロナ禍を踏まえ合宿歓迎会は、自粛したが、地元産の食材などを差し入れ歓迎の意を伝えた。</p> <p>【主な取組み】 ・陸上競技場トラック走路一部修理 ・合宿チームへの差し入れ（地元産）トマトジュース、牛肉、ジンギスカンなど</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>延合宿者数は、前年対比で24.8%増加したものの、コロナ禍前の一昨年対比では、35.5%減少した。要因としては、大学を中心に新型コロナウイルス感染症を理由とする公共交通機関を利用した移動自粛やハーフマラソン大会の中止に伴う合宿減などが大きな要因である。</p> <p>陸上競技(実業団)については、合宿団体数は減少したものの海外遠征や分散合宿を行わずチーム全体で合宿を行う傾向があり、1日あたりの実人数が増加した。また、東京五輪の調整合宿や日本実業団陸上競技連合合宿の参加者が男女ともに増加したことにより、延人数については前年対比11.3%増加し、一昨年対比では、1.8%の減少にとどまった。</p> <p>また、スキー競技については、大会の開催により前年対比37.6%まで延人数は回復したものの、新型コロナウイルス感染症を要因とする合宿の自粛や滞在期間の短縮により、一昨年対比では24.6%の減少となった。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>各合宿チームは、コロナ禍による制限のなかで相当な苦勞をしながら日々のトレーニングに励んでおり、「合宿の里」として、できる限りのサポートを行うことが合宿の聖地、また、目標の達成につながるものとする。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、合宿に訪れるチームとコロナ対策に関する合意書を交わす取り組みを今後も継続し、市民はもとより合宿者にとっても、安全・安心を確保することを第一にした感染対策の強化を進め、合宿受け入れの回復をめざす。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.22	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担当部署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基本施策	生涯スポーツの推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
チャレンジデーの達成率		45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0
基準値(2018年度):27.1%								
目標値(2026年度):51.0%		16.1	24.2					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		市民スポーツ振興事業						
<p>【事業概要】 笹川スポーツ財団が主催する住民参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」への参加をはじめ、総合型スポーツクラブにおける各種事業などを通じ、広義のスポーツ参画拡大に努め、市民のスポーツ推進と運動習慣の定着を図る。</p> <p>【実施状況】 「チャレンジデー2021」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年の5月最終水曜日から10月27日(水)に延期になった。 5月26日(水)はサブイベントとして、「おうちチャレンジデー2021」を開催した。参加率は、全体で12.1%となり、公式参加率となるLINE報告では、1.21%(219人)となった。全国参加10自治体中1位となり、参加率が最も高かった自治体に贈られる「うちチャレ特別賞」を受賞した。 10月27日(水)には、メインイベントとして、自治体対戦形式でチャレンジデー2021が実施され、友好都市である愛知県みよし市と対戦し、士別市は、チャレンジデー初勝利をおさめた。(※みよし市の参加率は、11.5%)</p> <p>【サブイベント】 ・5月26日(水) おうちチャレンジデー2021実施 参加率:12.1%(2,186人)</p> <p>【メインイベント】 ・10月27日(水) チャレンジデー2021実施 参加率:24.2%(4,389人) ※KPIは、メインイベントの数値</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、人を集めるプログラムは、実施せず、個人での運動・参加報告とし、広く市民に周知できるよう情報発信に努めたが、目標達成には至らなかった。市民の運動習慣のきっかけづくりと定着を図るため、多くの参加をいただけるよう、より効果的な情報発信の方法を検討していく必要がある。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>イベントへの参加に限らず、日頃からスポーツや運動に参加する機会をつくるなど、年間を通じた継続できる取り組みを進めていくことが必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、思うような活動ができない状況が続いているが、各種媒体を活用し、運動方法の紹介や運動意識を高める啓発を行うとともに、スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブの事業と連携するなど、市民の運動習慣定着に向けた取り組みを進める。</p>								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.23	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担当部署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基本施策	各種イベントの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
スポーツイベントの参加者数		5,630	5,680	5,730	5,780	5,830	5,880	5,930
基準値(2018年度):5,624人/年 目標値(2026年度):5,930人/年		482	899					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツイベント開催事業						
<p>【事業概要】 国内外のトップアスリートが参加する質の高い各種スポーツイベントの開催や市民の参画をはじめ、農業、商業、観光と連携を図りながら、魅力ある大会づくりを進める。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症の影響により、大半のスポーツイベントが中止となった。しかし、5つの大会以外は、各競技団体における感染対策ガイドラインなどを参考に対策を講じながら開催した。</p> <p>【主な取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ士別大会 177人 ・士別ハーフマラソン大会 0人 ・イトイ産業杯争奪学童野球交流大会 0人 ・国民体育大会ウエイトリフティング競技北海道ブロック予選会 46人 ・サフォーランド士別カップ少年サッカー大会 0人 ・アジア交流少年サッカー士別大会 0人 ・全日本サマーコンバインド朝日大会 80人 ・全日本サマージャンプ朝日大会 104人 ・全日本ジュニア&レディースサマージャンプ朝日大会 67人 ・「合宿の里士別」ジュニアサマージャンプ交流大会 30人 ・クラレ高梨沙羅カップジュニアサマージャンプ朝日大会 67人 ・朝日ノルディックスキー大会 328人 ・オリンピックデーラン士別大会 0人 </p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止や縮小となり、目標を達成することができなかった。</p> <p>大会を開催するうえで感染予防対策が課題となっており、今後、様々な情報収集に努めるとともに、他の大会の開催状況なども参考にしながら、コロナ禍における運営体制や方法を検討することが必要である。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>大会の開催は、各競技団体による感染防止対策ガイドラインを基本として、安全対策を講じながら開催するうえで、これまで以上に人員や対策費用などが必要となる。このことから、様々な状況と課題を想定し、各種大会の開催について検討を進める。</p>								

士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.24	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	オリンピック・ムーブメントの推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
オリンピックデーラン参加者数 基準値(2013～18年度):平均666人 目標値(2026年度):730人/年		670	680	690	700	710	720	730
		125	143					
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		ホスタウン推進事業						
<p>【事業概要】 JOCとのパートナー都市協定を締結したまちとして、「オリンピックデーラン」の開催を通じ、オリンピックムーブメントの普及・啓発を行う。また、オリンピックの価値や精神を学習する場として、中学生を対象とした「オリンピック教室」を開催する。</p> <p>【実施状況】 2020東京オリンピック・パラリンピックの開催の年、また、30回目の節目を迎える「オリンピックデーラン」であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。 JOC主催の「オリンピック教室」は実施できなかったが、北海道オール・オリンピアンズの協力を得て教育委員会主催で「オリンピアン教室」を開催し、オリンピックの価値や精神を学習した。</p> <p>【主な取り組み】 ・オリンピックデーラン士別大会 0人 ・スポーツ教室 0人 ・オリンピアン教室(2学年対象) 士別南中学校 57人 士別中学校 75人 朝日中学校 11人</p>								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成						
<p>昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により「オリンピックデーラン」及び「オリンピック教室」が中止となり目標を達成することはできなかったが、6月及び8月に北海道オール・オリンピアンズに協力をいただき、「オリンピアン教室」を開催した。 来年度は、2年越しとなったオリンピックデーラン記念大会をJOCと連携を図りながら、万全の体制で開催をめざす。</p>								
■ 改善に向けた主な取り組み								
<p>2020東京オリンピック・パラリンピック後のさらなるオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進をめざし、事業内容や運営体制などについて見直し、検討を進める。</p>								